

各常任委員会において、所管する各分野を詳しく審査しました。主な内容を紹介します。

福祉教育委員会

9月14・15日

高齢者バス等利用助成事業

Q 高齢者バス等利用助成事業に関して、バス・タクシー等の利用内訳はどうか。

また、対象者のうち、約55%の方が助成券を利用しているのに対し、約45%の方は利用していないが、その理由は何か。

A 利用の内訳は、バスが56.5%、鉄道が20.1%、タクシーが23.4%である。

バス等利用助成券について約半数の方が利用していない理由については、対象者を地域別にみると、利用割合が異なっており、バス路線が充実していない地域や鉄道駅が近くにない地域の方の利用が少ないことがあげられる。また、対象者全員に郵送している中には、バス等の利用自体を必要としない方が一定数含まれることが考えられる。



老人クラブ補助金

Q シニアクラブへの加入率が6.7%から6.1%に下がり、クラブ数も減少している中で、何か打開策を検討しているか。

A シニアクラブの加入者数について、現在クラブ数が49クラブ、2,346人と年々減少傾向にある。

シニアクラブへの加入促進のため、現加入者の方と検討を行い、どのようなイベントが求められているかなどのアンケート調査を行った。そのアンケート結果をもとに、講演会やノルディックウォーキングなどさまざまなイベントの開催を検討している。

また、PRをもっとすべきということで、広報みしまでの特集や、シニアクラブがない地域の方もほかの地域のシニアクラブ（一部のシニアクラブ）に参加できることを周知するなど、対策を講じている。

総務委員会

9月16・17日

循環バス運行事業費補助金

Q コミュニティバスの乗車人数が減少している傾向にあり、運行している事業者への負担を心配する。高齢者の方に助成券を郵送するなど、利用率が上がるための対策を取っているが、成果が上がらない現状をどう捉えているか。

A 乗車人数は年々減少しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛の影響が追い打ちをかけていると考えている。循環バスを自主運行バスへ切り替えるという方法もあるが、そのためには事業者との調整や経費的懸念もあるため、市民ニーズに合致した形態を検討したい。

関係各課で地域公共交通網形成計画を作成しているが、その際に市民ニーズ、市民意識調査を行っている。調査の中で、公共交通の利用について確認しており、今後単独継続困難な地域など、改めて路線の見直しの必要があれば検討していきたい。

新庁舎建設基本構想

Q 新庁舎基本構想策定業務委託についての詳細は。また、コロナ禍の影響で新庁舎の構想についても変わらないといけない大きな波があると思うが、どう考えているか。

A 現在スマート市役所を推進しているが、新庁舎建設時にどの程度デジタル化が進んでいるのか予測がつかない中で、基本構想を今すぐ作成することは時期尚早であるため、市庁舎に対する市民の意見集約が肝要だと考えた。委託は市民アンケートと市民ワークショップを実施する内容となっている。

新庁舎の構想に対するコロナ禍の影響は大きく、当初は分散している施設を一カ所に集約する考えだったが、新型コロナウイルス感染症等に職員が感染した場合、集約された庁舎が閉庁になる事態も予測される。結果的に集約することになった場合も感染症対策を考慮した庁舎が必要で、市民ワークショップでもその点を検討していただく方向で考えている。

不登校対策事業

Q 不登校児童・生徒に対応するスクールソーシャルワーカーの現状と今後の人員体制はどうか。

A スクールソーシャルワーカーの相談件数は年々増加傾向にあり、そのニーズも高まっている。業務内容も不登校対策のみならず福祉等関係機関とも連携をとり、対応に当たっている。

また、スクールソーシャルワーカーの人数について、令和元年度は4人体制であったが令和2年度は1人増員して5人体制で行っており、今後も状況に合わせて人員配置を行っていく。

消防団の出動実績など

Q 消防団の出動実績や報酬について、記録されている出動人数よりも実際はさらに多くの人数が出動しているのではないかと考えるが、報酬が不十分ではないか。

A 風水害などにおいて、気象警報発表前までに巡回した場合は上限8人までということで上限を設けていることもあるが、団員の確保が重要なので出動してもらったものについては原則支払いをしていきたい。

